第６回　仙台市音楽ホール検討懇話会

日　時　平成31年2月4日（月）　14:00～16:00

場　所　ＴＫＰガーデンシティ仙台勾当台ホール１

出席者　今井邦男委員、垣内恵美子委員、三塚尚可委員、村上ひろみ委員、本杉省三委員、天野元委員

次　第　１．開会

２．議事

(1)仙台市音楽ホール検討懇話会報告書（案）について

３．閉会

配付資料　資料１　　第５回仙台市音楽ホール検討懇話会　議事要点

資料２　　仙台市音楽ホール検討懇話会　報告書（案）

１．開会

２．議事

（会議公開の確認→異議なし）

（議事録署名については、本杉会長及びもう一人（五十音順）の委員に依頼（今回は三塚委員）→異議なし）

(1) 仙台市音楽ホール検討懇話会報告書（案）について

○本杉会長

ただいまから本日の議事に入りたいと思います。

初めに、前回の懇話会の議事要点の確認ということで、資料１に基づいて事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（永山株式会社政策技術研究所代表取締役）

（事務局より資料１に基づき説明）

○本杉会長

どうもありがとうございました。

次に、本日の議題になっております仙台市音楽ホール検討懇話会報告（案）、資料２でございますが、それについての説明を事務局からお願いいたします。全部で七十何ページですか。

○事務局（永山株式会社政策技術研究所代表取締役）

（事務局より資料２に基づき説明）

○本杉会長

ありがとうございました。

非常に丁寧な説明をしていただきました。この77ページの開催経緯の表にありますように、2017年の11月から今日まで約１年半にわたって、会議を６回行ってきました。また、その間にも部会を３回催して、非常に丁寧にやってきたんじゃないかなと思います。そこで出てきた資料や話題を材料に、私と事務局で皆さんの考え方を整理しながらまとめたものでございます。

最初の目次のところにありますように、全体が４章で構成されています。初めに現状に基づく理解をし、その後施設の考え方について基本的な方向性、理念とか目的とか機能といったものを位置づけまして、それに基づいた施設の考え方、規模といったものを想定して、かつ、事業運営の考え方についてまとめています。その中には舞台芸術の事業だけではなくて、管理運営、そして管理運営もまちづくりに関連して考えるべきであるとか、あるいは人材育成が非常に大事であるとかいったお話もありましたので、そういった内容も網羅してあります。

３章が施設整備で、この中の大きな話題というのは、立地とその事業手法、特に立地に関しては部会を設けて検討してきたわけです。

そして、第４章が、今後に向けてということで整理をしております。

以上のような内容に基づいて、今日、皆さんにもう一度審議していただいて、その内容を踏まえて、修正があれば修正を加えて、最後の調整を図って報告書を作成していきたいと考えています。ですので、皆さんからのご意見を、最後になりますけれども、いただきたいと思っております。

質問やご意見があれば、ぜひこの中に、特に最後の４章のところになるかと思いますけれども、盛り込みたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

いかがでしょうか。

では、まず、副会長の今井委員からお願いできますか。

○今井副会長

非常に膨大な情報をこの１年半ぐらい、よくやってきたと言われたから、よくやったなと思っておりますけれども、ただいまの報告の中でもとても興味深い、例えばハードとソフトの対話であるとかですね、そういう観点を持って進めなくちゃいけないであるとか、それから、楽都の捉え方は、楽しみの都というふうに、楽都というのはすごく僕らは使いなれた言葉なんですけれども、やっぱり楽しみの都というふうに考えると、すごく音楽的な事業あるいは新しい音楽の事業のあり方みたいなもの、決して音楽の専門家だけ、あるいはそういう人たちだけでないところまで踏み込んで、その事業やさまざまなものを行うホールのことも考えていかなければいけない。そういう開かれた、そういうものを感じました。

私は専らソフトのほうにばかり関係しているわけですけれども、でも、ソフトというのは、結局ハードがなければ共有できないということは、僕はこの間からすごく強調していることですけれども、共有することはもう絶対にこのハードのホールがないと、あらゆるいろいろな考え方も含めて、芸術も含めて、音楽も含めて、あるいは生き方なども含めて共有できないんです。だから、このホールをきっかけにして、そういう新しいまちづくりと言いますけれども、その新しいまちづくりは新しい人間の関係をまちの中から生み出してくるというそういうような内容になるんじゃないかと思ったんですけれども、ぜひこのホールは実現して、そういう新しい仙台のまちができていくようにお願いしたいと思います。つくっていこうというふうに言わなくちゃいけないのかな。いきましょう。

以上です。

○本杉会長

どうもありがとうございます。

共有というキーワード、前回のこの会でも何回か出てきまして、それが今日の資料１にも反映されています、書かれているとおりで、大変大切なキーワードじゃないかなと思います。

そのほかにありますか。

垣内委員、いいですか。

○垣内委員

ありがとうございました。

この報告書を拝見いたしまして、これまでのいろいろな議論が非常に明確に整理されて、よりわかりやすくなっていて、これを読む方々に伝わるんじゃないかなということを非常に強く感じました。事務局のご努力に感謝したいと思っております。

ただ、この構成の中の分量からも非常によくわかるんですけれども、第４章という部分がある意味薄い。私たちのこの懇談会の所掌を超えている部分もあるのかとは思うところではあるんですけれども、所掌事務を拝見すると、ホールが備えるべき施設機能と規模に関すること、これはかなりきちんと具体的に目的、それから目指すべきところ、それまでの道筋についても、人材育成なども含めて割としっかりと示せたのじゃないかなというふうに思いますし、立地についてもかなり具体的に個別の事柄について、その可能性だけではなくて、将来的な展望も含めて、両論併記ではありますけれども、非常に詳細議論させていただいた上で、それを非常に明確におまとめいただいたように思います。が、その他音楽ホールの整備に係る必要な事項に関することなのでしょうか、今後どうするのかについても記載したほうがよいのではないかと思います。この点は、なかなか難しいところでありまして、私たちも余り議論することが十分でもなかったし、今後どうなるのかというのはちょっとわからないところなんですけれども、当初から申しましたように、今、この時期に仙台が大きな投資をして、これだけのハイスペックの2,000席のすばらしい拠点を、都市の顔になるような資産だと思うんですけれども、これをつくっていくということですから、どういう内容なのかとか、どういう規模なのかとか、立地だけではなくて、これをどういうふうに実現させていくのかということも非常に重要なことだろうというふうに思います。ページ数は少ないかもしれませんけれども、市に対して期待することを示してはどうかと思います。特にこの報告書では、文化芸術の力は未来を拓くというようなところもはっきり打ち出されていて、今後その都市創生の推進を図る拠点として、民の力も生かしながら、市民の理解と支援を受けながらというようなところも打ち出せているので、今後ぜひ市にこのホールの推進に向けてご努力をいただきたいなというふうに思っております。

２の今後の向けてのところで特に気になっている点は、（２）と（６）です。いろいろな近年、特に最近、直近いろいろな動きもあるようですので、やっぱり柔軟に対応しながら、仙台市として最もすばらしい、市民に最もふさわしいサービスが提供されるような形で今後進めていただければなというふうに思っております。

気持ちとしては、もうちょっとこの第４章が具体的に書き込めるとよかったかなとは思うんですけれども、今日は最後だということなので、方向性だけは一応示せたなかというところで、非常によくまとめていただいたというふうに思っております。ありがとうございました。

○本杉会長

ありがとうございました。

特にどの辺、どういうふうに変えたらいいかとかというのあれば。

○垣内委員

気持ち的にはタイムスケジュールです。

○本杉会長

タイムスケジュール、全体のですね。今後のスケジュール。

○垣内委員

方向性はわかっているので、いつぐらいまでにとか何とかというのがあると、すごくいいかとも思いましたが、これもいろいろあるでしょうから、余りご無理なさらず、現実的なところできっちりと進めていただければと思っております。

○本杉会長

ありがとうございます。

最後にお話いただいた70ページと71ページのところに書いてある（２）と（６）については、多分我々が当初この委員会を始めた時点と現在で条件が違っていますよということを暗におっしゃっているんじゃないかなということですよね。

○垣内委員

そうです。

○本杉会長

つまり県のホール構想が今出てきたこと、私もそのことは非常に気になっていまして、皆さんも気になっているかと思いますけれども、県のホームページを見ました。県知事の記者会見の内容もちょっと見たんですけれども、これについて市で何か知っていてお話できることがあれば、ご報告していただけると、皆さんもう少し状況がつかめるんではないかなと思います。できたらお願いいたします。自分たちの範囲を超えていますので、ここはなかなか書きにくい部分もあるかと思いますが。

○事務局（中山文化振興課長）

多くの方が気にしている県との関係でございますけれども、県のほうが出しています資料をもとにご説明しますと、これは昨年、30年12月13日の県議会の中の常任委員会に出された資料で公表されているものです。

１ページものですけれども、要約しますと私の主観が入ってしまうので、読み上げたいと思います。

県のほうは、音楽ホールが先に始まりましたので、仙台市が2,000席規模のいわゆる生の音源を重視した多機能型のホールをつくるということを前提に、今ある県民会館の後継施設をどうしたらいいのかということで、まず需要調査を行っています。この調査の目的ですけれども、県民会館の今後のあり方検討を進めるに当たり、仙台市が音響を重視した高機能な2,000席規模の多機能ホールの整備について検討を進めていることを前提に、県民会館の潜在的、将来的な需要を見込んだホールの規模や機能などの把握と、今後の整備検討に活用するための基礎資料を得ることを目的に行ったとなっています。委託期間が昨年の５月30日から10月31日まで。

調査結果の概要でございますけれども、調査の総括としまして、現在の県民会館の高稼働状況、すごく使われているということですね。高稼働状況及び仙台市内のホール不足への対応を考慮すると、県が2,000席規模の施設を整備しても、施設の供給過剰となることは想定されにくいという結論でございます。

幾つかその理由が挙げられていまして、まず、現状の県民会館の利用状況という項目がございます。県民会館の利用状況、興行公演が主体で、公演者の中心はポップス、ミュージカル等である。集客数1,300人以上の公演が６割を超え、稼働率は８割から９割と非常に高い水準である。あと、県内の1,500席規模以上のホール稼働率は、利用予約が取りにくい70％を超えている。これが一つの理由です。

二つ目としまして、県内の興行公演ジャンル分析というのがあります。国内興行における音楽とステージの公演比率が47対53であるのに対して、県内では80対20である。ステージ公演の割合が極端に低いとなっています。この要因は、ステージ公演に適したホール不足の影響と考えられるというふうになってございます。

三つ目として、ホール施設利用者へのヒアリング状況、大手利用団体11団体中９団体がホール不足を訴え、新たに2,000から2,500席規模や1,500から2,000席規模の多目的ホールを求める声がある。あと、県内外の教育機関・団体では、1,800席以上を希望する意見が最も多く、３割を占めている。あとは、演劇やミュージカルに適した中小規模の劇場の不足が指摘をされているとなっています。

四つ目としまして、県民会館に求められるこれからの方向性となってございまして、県内にホール施設を整備する際は、大型ミュージカルやポップスなどステージジャンルの大型興行への対応を考慮した大規模施設や地元劇団、県民が利用しやすい中小規模の劇場が望まれている。仙台市が検討を進めている新ホール施設との機能のすみ分けや県民会館がこれまで

担ってきた音楽及び演劇などのステージジャンルの興行公演をこれまで以上に振興する総合的な施設整備が求められている。

最後に、今後の対応としまして、今回の調査結果を分析し、有識者からご意見を伺いながら、県民会館整備に向けた県の方針を取りまとめていくというのが資料の内容でございまして、聞くところによりますと、今月ぐらいに県民会館のあり方を検討するための有識者の委員会が立ち上がると聞いております。今月に立ち上がって、夏ぐらいまでにその検討を進めまして、県民会館を今後どうするのかという一定の結論を得たいというふうに県のほうでは考えているようでございます。

以上でございます。

○本杉会長

ということだそうです。こちら市が音響を重視した多機能ホールを計画中であるということのもとに、県の構想が進められるということです。2,000から2,500規模のホールや1,500から2,000席規模のホールが、まだこれは懇談会前の情報ですけれども、話題になっているということです。まだ始まっていないので、今後どうなっていくか、ちょっと私たちにもわからないところがありますので、書くにはちょっと書きにくいところはあります。が、県施設との関係はどうするのかということも確かに触れるべきかなと思います。

じゃ、続いて、三塚委員お願いできますか。

○三塚委員

まず、この音楽ホール建設に関しまして、いろいろ広い範囲から検討してきたと。私自身も大変知らない部分があって、大変勉強になったなということがございます。

それから、立地に関して専門委員会の方々の中でいろいろ検討されて、大変どの場所に関しても難しい難題があるんだなというふうに思います。しかし、その難題を乗り越えないと建物が建たないわけで、それをいかにして乗り越えるか。この報告書の中でも何度も述べられているのが市民の理解と、それから、協力、支援といいますか、そういうものが大事なんだとまとめられていますけれども、私も同じように思いまして、ただ、これからどのようにすれば市民のご理解が得られるのか。私たちも、私、市民会議の代表もしておりますので、そちらのほうでももう一度取り組んでいかなければならないなというふうに思います。

また、先ほどもお話ございましたが、やはり計画が正確に、迅速にといいますか、そういうことも非常に大事でして、何十年前からの課題でありますので、できるだけ早く実現することを決断してほしいなと思うんですが、決断というのがどなたなのか、行政の市長さんで

あるとか、議会の方々とか、そういう方々がやっぱりリーダーシップをとっていかれるんだと思いますが、非常に期待しておりますので、私たちも努力してまいりたいなとこう思っております。

○本杉会長

ありがとうございます。

立地に関しては、これがという決定的なものは言いにくいのかもしれません。また、市民理解と支援というのも、今までシンポジウムとかも何度かしてきておりますけれども、これもなかなかそう簡単に理解とか支援というのが、おもてだって分かるわけではありません。粘り強い声かけといいますか、広報、伝えていくという活動が必要なんだろうなと感じております。

では、続いて、村上委員、お願いできますか。

○村上委員

申しわけございません、前回、大切な第５回を欠席といたしまして。第５回の立地のところも含めて、私の思いをお話させていただけたらと思います。

まずは、今日改めてこの報告書を、70ページにもわたる立派な報告書、本杉委員長、そして事務局の皆様がお力入れてつくられたものを改めて拝見しまして感服いたしました。これを本当に実行を移すということをしていかなきゃいけないと思っております。

24ページの理念には、全ての人が集まる誰もが集い、交流する広場としての文化施設と、新しい広場とございます。この理念からも、全てこの報告書の中には一つ軸が入っているかと思いました。第５回の、前回の立地とも関係するんですけれども、そういう意味では利便性、公演観賞を目的としなくても来館したくなる誘客性、まちの回遊性を高めるということが先ほどの全ての人が集うという場所になろうかと思います。

その一つの大きな目的と、あともう一つ、費用面といいますか、投資対効果のところですね。先ほど垣内委員もお話されましたとおり、この時代、少子高齢化で、仙台市といえどももう労働人口が減少するこの時代において、ずっと継続して投資をした費用に対する効果が発揮できる立地でなければならないと。ホールのあり方はもう全てここに出ていますので、あとはその立地だと思っています。そういたしますと、おのずと今現在ある既存集積の活用が最も有効ではないのかなと私自身は思います。

ここからは私の意見になってまいるんですけれども、西公園の地区と、あとは勾当台の地区と錦町の公園とございますけれども、西公園のところは景観重点地域とあります。また、

学校と文教地区であって、なかなか横展開しにくいのではないかと思います。また、交差点の歩道橋の問題や高さ制限もあります。かなりそこに１つ建物を建てたとしても、横展開が厳しくて、また従来のとおりぽつんとあるような、新しい建物で立派にはなろうかもしれませんけれども、ぽつねんとなるんではないかと私自身は懸念いたします。

一方で、既存の集積のまちの中ですね。そういう意味では勾当台もよろしいんですが、既に今いろいろな形で勾当台公園は活用されていますので、そういう意味では、残るは錦町公園かなと私個人は思います。錦町公園の課題としてここに書かれておりますのは、都市公園の役割で、木々でしょうか。公園の役割ということがありましたけれども、そこは単なる錦町公園１カ所でそこがあるかないかということで、よいか悪いかを判断するのではなく、その界隈というんでしょうか。錦町公園、定禅寺通り界隈で、その面的なエリアで公園の役割を達成してここに建設することを何とかご検討いただけたら、うまくいけばいいんじゃないかなと思います。そうすることで、既存の集積を活用しながら、より仙台市の魅力を深めるというか、まさに楽都が楽しめる都と、一層そういった楽しめる都になろうかと思います。すみません、ここが私の意見でございます。

もう１点、ぜひお願いしたいところでございます。

先ほどスケジュールの件もありましたけれども、やはり県が新たな案を出してきたというところは、そういった意味では、この仙台市がより具体的なできるだけ早いスケジュールを出すことがやっぱり先手必勝になろうかなと思います。できるだけそのスケジュールの複層化というんでしょうか。立地決めてから何を決めてかにを決めてというのではなくて、運営のする人材育成を同時進行していくとか、私にはよくわかりませんけれども、いろいろな形でスケジュールを複層化して、いつまでに何をするというタイムスケジュールを世に出すことがより県との連携、最終的には連携をして、先ほど申しました目的の過大なる投資をした効果が薄いのではなくて、一体的な投資対効果を強めるということになろうかと思います。ぜひとも早期建設のスケジュールを出していただけたらと思った次第です。

以上です。

○本杉会長

どうもありがとうございます。

立地をめぐっては、３回の部会でもいろいろ出まして、それは今日見ていただいている資料にも両論が併記されているとおりです。ただ、集積を生かすとか、都市における回遊性を生み出す、あるいは施設をつくることによって、そこでの活動とともにまちが成長していく

そういう場所であるべきだという点では皆さん意見の一致してみたところです。それぞれの敷地に課題がありますので、これからは市がそれらを勘案しながら決めていっていただくことになります。

県との関係でスケジュールを早くということですが、余り早いと拙速だということになって、それこそ市民からの理解や支援というものが難しくなりますので、これも非常に難しいところです。これまで長い時間かけてこういった場が設定され、ここに至る時間も長かったわけです。それを加速する必要あると思いますけれども、また慎重にやらなきゃならない場面もあるということです。ただ、スケジュールに関する話というのは今日出ましたので、今の話も含めて何か考えなきゃいけないんだろうなと思います。ちょっと相談しながら、書ければ書いていこうと思います。

このほか、今日欠席の委員で伝言とか何かこういうことを言いたかったというご意見があれば、披露していただければと思いますが、ありますか。

○事務局（中山文化振興課長）

前回と今回欠席の宮原委員にちょっとメールで聞いてみましたけれども、返答はございませんでした。すみません。

○本杉会長

ありがとうございます。

では、天野委員、お願いできますか。

○天野委員

これまで長い間本当にありがとうございました。私としては、今までの議論が報告書のほうには十分反映されていると思いますし、また、今日の懇話会で出たご意見をどう反映していくかというのは、追って本杉委員長のご判断とかあればいいかなというふうに思っています。

市民の議論、市民といいましても、聞く人、それから、演奏する人、そして、そのほか音楽には関係ないけれども集う人、そういった方々または周りの住民の方々、そういった方々の議論、それから、市議会初めとした議論、そういったことのたたき台としては十分にさまざまな情報が、ポジティブもネガティブも課題も全部出ているのではないかというふうに考えております。市としては、来年度立地についても判断しまして、基本構想の着手に進んでまいりたいというふうに考えております。

それから、先ほど出ました県のホールとの関係でございますが、これについても県の検討

の委員会の進みぐあいにもよりますが、十分こちらの意見もあちらも状況も情報共有しながら、または意見交換しながら、まさに総体として、仙台、宮城、そして東北の中でどういうポジションを２つのホールがとっていくのかといったことについて考えていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○本杉会長

どうもありがとうございます。

私のほうからも少し意見を言わせていただきたいと思います。私も一通り見た上で、またもう一度今日改めて見てみますと、もう少し変えたほうがいいんじゃないかなというところが１つ、２つありますので、それについてちょっとお諮りしたいと思います。

１つは、先ほど垣内委員からもありましたが、４章をもうちょっと充実できないかということに関連するものです。震災を経験し、その復興過程でいろいろな音楽、音楽だけじゃないわけですけれども、文化芸術が役割を果たしてきた。それに基づいてこの計画が始まっているわけですから、その文化芸術の力を今後のまちや人作りにつなげていくというその辺の書き方をもう少し工夫してはと思います。69ページのところで文化芸術の力、未来を拓くというふうに書かれており、震災復興過程で経験した文化芸術の力が云々と書かれています。また、20ページのところでも書かれています。それを４章でもう少し充実した形で表せないかなと感じています。

ご存じかもしれませんけれども、何か復興的なときに文化施設が果たした役割というのは、古くてといっても20世紀のことですが、有名なところでは神奈川県立音楽堂、それは1954年に図書館と共に音楽堂がオープンしています。当時まだ終戦からそう遠くない時期に、そういった文化的な施設や活動こそ、未来をひらく上で非常に大事だということで、いち早く当時の知事がそれを推進をしたわけです。最近では兵庫とかもちろん有名ですし、また、熊本でも新しくそれで施設ができたということではありませんけれども、いち早くいろいろな連携が図られて、非常に幅広い支援というものが力強く行われたということがあります。ですから、そういった経験も踏まえて、震災復興という言葉をキーワードにもう少し文章の内容を膨らませたほうがいいかなというふうに感じました。

それからもう１点、まちづくりという言葉は何度も何度も出てきまして、70ページのところでも上の１つ目のゴシックですね。次世代に向けた新しいまちづくり云々と書いてあるところと、それから、今後に向けてというところの（１）でも市の都市政策としての方針の

決定とまちづくりと一体となった推進というふうに、ここでは１ページの中に二度にわたって出てきています。それだけ重要なことの現れですが、まちの活性化、都市機能の強化、まちづくりのエネルギーに活動やホールが力になるという議論が随分出たと思いますので、それらを踏まえた書き方にもうちょっと工夫できないかなと思いました。

いかがでしょうか。それらを含めて、何か皆さんのご意見がまたあれば、もう一度お聞かせ願いたいと思います。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、そこは私と事務局でもう一度内容を煮詰めていきたいと思います。

今日お話していただいたことに関係し、もう一度一通りご意見いただこうと思いますが、その前にザッとおさらいをしておきたいと思います。最初、今井委員のほうからは共有というキーワードをいただきました。それは前回からも、それ以前からも繰り返し出ています。文化芸術は芸術のつくり手だけがつくっているわけじゃない、また、その観衆と芸術家との関係でだけでつくられているわけでもない。プロデュースしたりマネージする人がいたり、あるいはその場に一緒にいて関係している人たち、そして批評家や情報を伝えていく媒体の人たちがいて、また、そういった媒体とともに産み出されていくものだと思うんです。その場とか空間、時間を共有することで一緒にみんながつくり出していく。ですから、一人一人が同じ音楽なり、演劇なり美術を見たり聞いたりしたとしても、一人一人が違うそれぞれの芸術といいますか印象というかをつくり出すわけです。その違った受け取り方、一人一人の物語というんですか、そういうものが大きな渦になっていくことでうねりとなって、芸術というものの意味が増幅されていくんだろうなと思うんですね。そういった意味で、決して音楽や文化芸術というものが孤立しているわけではなくて、大きな社会的広がりになっているということが議論されてきたんじゃないかなというふうに思っています。それをどう取り込むか、大分取り込んでいるんじゃないかと思いますが、その点がまず１点です。

それから、垣内委員のほうからは第４章について言われていて、もうちょっと膨らませたほうがいいんじゃないということがありました。大分幅広く機能や規模、立地、将来展望を含めて我々は議論してきたわけです。2,000席規模のハイスペックな施設を実現させていくには、都市の創生あるいは市民の理解というものが欠かせません。今後に向けては、県との関係ももうちょっと触れていきましょうということですので、それについては市の範囲を超える部分もありますので、どこまで書くことができるのかちょっとわかりませんが、皆さんの意見を踏まえながら考えているところを何らかの形で表現したいと思います。

内容としては、71ページのところなどにも書かれていますように、既にある施設との関係、特に市が管理している施設との関連というのは大変重要なので、を含めて、まちの構成、まちの活性化に関するところでも考えていこうと思います。また、（２）のところの環境が変化してきたわけですので、そういう中で県との連携をどう図っていくのかということについても若干触れる必要があるんだろうなというふうに思います。

それから、タイムスケジュールに関しては、早くというご意見は重々承知するところですが、先ほど天野委員からもあったように、立地場所を決めて基本構想へという一歩一歩着実に進めていくしかないわけで、ジャンプというわけにはいかないので、そこは着実に進めるということでどんなスケジュールになるのかということを少し記述できるといいなと思います。

三塚委員からは、早い実現ということがありましたけれども、市民の理解、支援というものをどうとりつけていくのか、これは重要だからきちんとこれからも努力しましょうねというお話でした。

そして、村上委員からは、前回出席されていないこともあって、立地の話が出ましたけれども、都市の集積を生かすということとか、そのほか今まで幾つか議論されてきた内容、特に共通で我々が持った内容、共有した内容のご意見だったというふうに理解していますので、その内容を確認して、もう一度間違いがないかを読み込んでみたいと思います。

また、投資の費用と効果ということも、これも再三、垣内委員初め言われてきたことですので、もう一度読み返して、必要なところは補充したいなと思っています。

以上のようなことがらについて修正、加筆をしながら見直すことになろうかと思います。大きくはそう変わらないと思いますけれども、今まで触れたところ以外で、こういうことが必要じゃないかということがあれば、もう一度皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。

今井委員からお願いできますか。

○今井副会長

震災のときのことと関係するんですけれども、今、宮城県合唱連盟が創立70周年を迎えていまして、今度３月に式典をやるんですけれども、そこの周年誌を編さんしていまして、そこの一番のメーンの記事は震災のころ、あのとき宮城県合唱連盟が何をしたかと。宮城県合唱連盟のアーカイブですね。それをもういろいろなそこの県連の人間のいろいろな活動の記録と、それから、新聞なんかの記録とそういうものをまとめてあって、大変僕も初めて知るようなこともありました。もちろん合唱連盟の中で一番最初に歌い出したのは子供たちな

んですけれども、器楽の世界では仙フィルですよね。マラソンコンサートがあったりして、そういう動きは、決してこの仙台というまちの中だけじゃなくて、それに呼応して、ヨーロッパからもそれに呼応してやってくると。例えば、ウィーンフィルなんか２回もやってきて演奏をしていくという、本当にボランティアで。それから、それは決してあのときだけじゃなくて、昨年もあったんですけれども、エストニアの合唱団が、これは２回目なんですけれども、これも仙台に来たいんだと言って、そういうことを、コンサートをやってくれる。それはとても大きな音楽がもたらした大きな人とのつながりを創造しているんですよね。そういう点で、私の言っていることはそういうこととつながっているんですけれども、宮城県の合唱連盟、もちろん吹奏楽も同じような経験をされているわけですよね。それを、音楽はみんな消えてしまいますけれども、その記憶として、あるいは活動として今も生きているということをお話しておきたいと思います。

○本杉会長

ありがとうございます。

では、垣内委員、お願いします。もし、あれば。

○垣内委員

報告書そのものにつきましては、会長の本杉先生がおっしゃったような方向で書いていただければというふうに思っております。

報告書に書いていただく必要はないかとは思うんですけれども、このホールをつくるということは、単に文化政策という文化にかかわる政策だけではなくて、市の全体の政策にかかわる部門ですので、ぜひ文化を所掌するセクションだけではなく、観光とか、それから、もちろんまちづくりもそうですし、場合によっては公園とか、緑地とか、文化財とか、そういったさまざまなセクションと連携しなければ、なかなか現実動いていかないと思います。大変なことだろうとは思うんですけれども、そういう大きなプロジェクトとして市がぜひ責任を持って進めていただきたい。これは報告書に書いていただくとか、そういう必要はないんですけれども、希望を込めてのお願いであります。

以上です。

○本杉会長

ありがとうございます。

では、三塚委員、お願いします。

○三塚委員

震災後の事につきましては、先ほど今井委員の方からお話ありましたが、吹奏楽連盟の方も同じような活動です。吹奏楽連盟は60周年を迎え記念誌をまとめているところですが、合唱連盟と同じような経験をしたということを中心に載せていきます。

また、私たちは音楽を計画する段階で、例えば全国大会とか東北大会もそうですが、まず最初にすることは会場を設定し、確保する事です。その点で、仙台はパスされてしまう事が多いのでこれまでに何度かお話しておりました。2,000人規模のホールがありますと全国大会が仙台で間近に聴けるのですが、最近ずっと全国大会が開催されていません。この報告書の中で是非加えてほしいと思うのですが、どの辺に入れば良いのかわかりませんけれど今後のところにでも是非組み込んでいただければと思います。

以上です。

○本杉会長

ありがとうございます。

では、村上委員、いいですか。

天野委員、ありますでしょうか。

○天野委員

先ほど垣内委員からお話ありましたように、ただ音楽ホールということにとどまらず、まちの重要な装置の一つとして、都市計画も含め広い視野に立って、市として判断してまいりたいというふうに考えております。

○本杉会長

どうもありがとうございます。

それでは、先ほど私が申し上げたことを含めて、まとめさせていただきたいと思います。細かい内容については私のほうに一任させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○本杉会長

ありがとうございます。

それでは、３月末を目途に懇話会の報告書を作成しまして、仙台市へ報告する方向で進めてまいりたいと思います。

以上で本日予定されていた議事は終了いたします。

どうも今日は、６回にわたりまして懇話会委員ありがとうございました。皆さんありがと

うございました。

○本杉会長

それでは、進行を事務局のほうにお戻しします。

３．閉会

○事務局（中山文化振興課長）

本杉会長、どうもありがとうございました。

最後に事務連絡でございます。

議事録についてでございますが、今回は本杉会長と三塚委員ということになりましたけれども、署名の前に一応事務局でつくった議事録案を委員の皆様全員にご確認をいただきまして、その後に本杉会長と三塚委員にご署名という流れでお願いしたいと思います。

それでは、本日をもちまして、この仙台音楽ホール検討懇話会全て終了でございます。委員の皆様にはお忙しい中、会議にご出席をいただきまして、そしてまた、活発なご議論をいただきまた。本当に心より感謝を申し上げます。

冒頭にご説明申し上げましたけれども、この懇話会の検討報告書につきましては、３月末ですね、多分３月二十何日になると思いますけれども、本杉会長から仙台市長へ直接ご報告をいただく予定となってございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、文化スポーツ部長の伊藤より一言お礼のご挨拶を申し上げます。

○事務局（伊藤文化スポーツ部長）

本日もご議論ありがとうございました。

先ほど来、本杉会長初め委員の方々からも出ましたが、この懇話会はおととしの11月に設置させていただきましたので、おおよそ１年半近くの年月がかかったということでございますが、これは足かけにいたしますと３年、こういった長きにわたったご議論をしていただいたということでございます。本当に委員の皆様には御礼申し上げたいと思います。

懇話会からのご報告をいただいた後は、私どものほうで市民の皆さんの合意形成に努めながら、また、その基本構想の策定という次のステージに進みまして、より具体的な音楽ホールの姿をつくっていきたいというふうに思っております。楽都仙台の新しい文化の拠点、こちらの実現に向けて引き続き努力してまいりますので、委員の皆様方には引き続きいろいろな場面でご指導いただければと思います。

簡単ではございますが、御礼とさせていただきます。本日はどうもありがとうございまし

た。

○事務局（中山文化振興課長）

それでは、以上をもちまして第６回仙台市音楽ホール検討懇話会を終了いたします。

皆様、どうもありがとうございました。